

健友俳壇 第二十四回

(令和八年一月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、24回目となりました。旅の句は、昨年11月の健友秋のバス旅行での句です。

「一般の句」59句、「旅の句」30句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田桜(うえだ さくら)氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

◎特選(二句)

秋晴れや団地のまちの山羊の声

団地のまちと山羊の声の意外性のある取り合わせが良いですね。

これやこの大和言の葉しずり雪

これやこの：の指示語が効いています。しずり雪の措辞が良いですね。

○入選(五句)

ヤギヒツジポニーもまったり秋日和

全体のリズムが良い。まったりとした秋のひと日に動物の登場も楽しいですね。

霧晴る空にでっかく山毛櫨の山

景が大きいですね。下五の措辞が良い。

一歩づつ落葉踏み締む杖の母

落葉踏み締むが良いですね。杖の母の人生の道。

秋路行く友の背中が丸くなり

なにげなく見た友の背中。時の流れの中のひとこま。

紅葉狩りまだ色づかぬ温暖化

深秋ということばがほしくなりますね。

健友旅の句

◎特選(二句)

初冬(はつふゆ)の雲間に浮かぶ富士の峰

初冬の季語が良いですね。下五の富士の峰が作品を締めています。

噴煙に見え隠れする山紅葉

噴煙の白と山紅葉の赤の対比が良いですね。

○入選(三句)

山紅葉雲間に見ゆる富士の山

景がよく見えています。

ひさびさにもみじ楽しむバス旅行

久々のバス旅行を楽しみにしていた気持ち伝わってきます。

晩秋の箱根路巡るバスの旅

晩秋の季語の使い方が良いです。

細井 榮一

武居 正次

岩瀬 雄一

森田 泰夫

梅澤 輝雄

日向 日出子

榎本 一郎

宮川 修一

岩瀬 法子

細井 榮一

平岩 和恵

田村 弘治

投稿の句

●一般（五十二句）

選句依頼をした投稿句は、この他にもありました。紙面の都合上、掲載しておりません。

裸木（はだかぎ）の越生梅林秋時雨
朝露や庭球ひびく山の里
秋郊やマレーの大使天狗猿（てんぐざる）

細井 榮一

秋日和四方の窓を開け放つ

武居 正次

熱帯林美味しいパイやありがとう
鉄格子学びの庭に秋の風

岩瀬 雄一

月清山門をくぐるや秋気澄にけり

秋暑し木陰を拾う二人連れ

森ありていよいよ紅し曼殊沙華

吾亦紅私花よと背伸びして

誰打つや刈田を渡る寺の鐘

森田 泰夫

か白き団子の芳はしき娘妻

床に這ひ名月撮りて腹苦し

鍋一杯溢るや母の大根煮

布団から抜け出す決心ままならず

梅澤 輝雄

道々の萩を讀みたいかにせん

どんぐりを拾いて一句吟行会

日向 日出子

熱帯魚季節問わぬは熱帯館

ねったいかん紅葉探し上の空

榎本 一郎

冬晴れや一人静かに母は逝く

踏み出した足の甲には枯葉舞う

駅前の北の朝市雪の中

高橋 洋子

コスモスが見事に咲いて生花（いけばな）に

医者帰るかえりはゆっくり秋の風

髪カット心も軽く秋日和

長寿者の元気はつらつ秋の朝

栗ごはん食し元気に散策す

日野原 志津江

絶え間なく波うつ水槽グッピー群

ピラニアの眠りの刻かしじまなり

空高くテニスに汗す老四人

島田 あい

山羊の背に手をおく子らに秋日かな

待ち合わせハロウィン飾りの植物園

宮川 修一

子供らとヤギとたわむれ秋うらら

秋なのに冷氣吹き出す熱帯館

もみじ手でモルモット撫で口ゆるむ

吉田 誠

秋澄む日何を思うかモルモット
秋うらら老友と共に吟行す
空高く吟行すれどネタがない

菊川 雄二

温室でブルメリア見て夏さらば

公園でどんぐり拾う秋の日に

晴れ渡る秋の空見て何想う

廣田 美由紀

天高し山羊と闘う先輩や

筆走る真剣な顔秋の午後

秋晴の動物園で癒される

佐藤 恵子

●健友旅（二十五句）

俯瞰（ふかん）する「ちきゅうの谷」も白き息

宮川 修一

バスの窓山肌染める色紅葉

岩瀬 法子

晩秋の帰路の入日や西湘路

秋深し大涌谷の黒玉子

バス旅行箱根関所の紅葉かな

細井 榮一

はつらつともみじ散るかなバスのそと

平岩 和恵

晩秋のくれないそむる友の顔

田村 弘治

秋の旅箱根路紅葉心癒（いや）す

稲毛田 きえ子

紫に郁子（むべ）の実揺れて箱根路

箱根山色とりどりに秋の風

岩瀬 雄一

山霧が色付く紅葉に白を添え

冠雪の見え隠れする雲間富士

揚げ魚のど通すのも惜しい味

古賀 のり子

バスの旅赤緑黄心なごむ

多賀 信子

紅葉かテールランプの箱根道

ぬる爛にホッと一息芦ノ湖畔

田中 範行

バスを降り車列を追いて紅葉道（もみじみち）

大涌に紅葉（もみじ）に勝る黒たまご

太野垣 孝範

くもり空色鮮やかにもみじする

花野 綾子

友と行く秋の箱根路散策へ

秋深く友との箱根思い出に

廣田 美由紀

秋の句をゆびおりかぞえしぼりだす

宮井 章子

秋空に富士の高嶺は日本一

懐かしい顔顔顔のバスの中

いつまでも乗っていたいなバスハイク

渡辺 光夫

一般・旅の句それぞれに、お一人複数作品の投稿が可能です。まだ投稿されたことのない皆様も、お気軽に投稿してみませんか。会報部では多数の投稿をお待ちしております。健友事務局あてに、ハガキ・FAX・メールなどで常時受付をしていますのでお送りください。次回は、7月31日までの提出分の選句結果を、会報1月号送付と同時にお知らせする予定です。